

(一社)三重県トライアスロン協会 中・長期計画

2025年6月24日

ミッション (使命)	多様な人々に、トライアスロンを軸としたマルチスポーツを、 安全に愉しめる環境と交流の場を創出します。 スポーツを通じた地域社会への貢献と、健康的なライフスタイルを促進する 普及・発展活動を継続的に行います。 おいしいさ、三重。	
区 分	普 及	強 化
ビジョン (役割)	・もっと身近に もっと愉しく…、過酷なイメージからの変換を目指します。 ・県民の健康的なライフスタイルとスポーツ文化の醸成に貢献します。 ・効果的な広報活動によってトライアスロンの魅力を広く発信します。	・2035年国スポ三重で活躍できる代表選手、 次世代を担う選手を継続的に発掘育成します。 ・専門的な知識・技能を持つ指導者の育成を進めます。
アクティビティ (活動)	・協会主催イベントの充実 ・J T U、三重県、地域関係組織との連携強化活動促進 ・協会としての情報発信力を高める活動	・選手育成活動 ・指導者育成活動 ・協会の支援体制整備と強化
具体的な目標	・南部・中部・北部・伊賀地区のブロック化（2028年まで） ・協会主催の体験会、練習会 年3回以上開催（2025年度より） ・登録会員数の増加： 登録会員数300名、ジュニア会員20名（2028年まで） 女性会員の増加（2024年度比2028年に2倍に） ・北中部での新規大会開催（2028年度：アクアスロンorデュアスロンも視野に） ・競技ではなく、低負荷の有酸素運動三種目を続けて行うことを 健康増進プログラムとして日常的に行うことを提唱 ・理事会における普及担当の役割明確化 ・SNS活用推進チームを立ち上げる（2025年度上期） ・協会としての普及に関するコンセプトの共有・HPの刷新（2026年上期までに） ・協会からのメールマガジン定期配信 年4回（2026年下期から）	・国スポ出場を目指す選手発掘と育成 1名／年 ・指導者募集と育成 1名／年（2025年度中に具体化） ・練習会を年3回、記録会を毎年1回開催 ジュニア、エイジ選手へは協会内指導者による指導も検討 ・チームみえジュニア事業予算増額を図るため、 認定選手を毎年推薦し、U15世代の育成に繋げる ・年間を通じて優秀な活躍をされたエイジ選手を対象に 表彰と特典を付与し栄誉を称える制度を策定(2025年度中) ・年2回みどりクリニックでの体力測定会を実施（2025年度中に具体化） ・三重県の選手構成による国スポ三重での男女総合10位以内 ・国スポ出場選手への外部コーチによる指導 ・協会としての強化予算を上げる仕組みを確立 ・三重県の指導者への資金援助制度を設ける（2025年度中に制度化） ・ジュニア会員選手への補助金制度の充実（2024年度比2028年に2倍）
具体的活動内容	・体験会・練習会は、各地区のトライアスロンクラブと連携し開催 ・練習会終了後などに交流会を企画し親交を深める ・成人の初心者向け体験会開催(三種目の基礎体験) ・競技を目的としないファミリー&シニアクラス体験会開催を検討 (家族単位や60歳以上対象の週末教室、健康維持プログラム実施) ・行政・自治体による健康イベントの情報を収集 ・地域自治体やスポーツ団体との共同イベントを模索検討 ・ジュニア層への普及の向け、教育現場で働く複数の会員での意見交換の場を設ける ・小中学校への講演会・出張講座や体験イベント開催検討 ・中学校における休日部活動の地域移行に向け、対応を検討 ・他の競技団体・スポーツクラブ（例：陸上、水泳、自転車）との交流推進 ・県内の自転車販売店等への協力依頼 ・協賛企業とのコラボによる健康イベントの開催 ・会員へのメールマガジンの配信 (三重県選手の活躍、各トライアスロンクラブの活動、三重県協会の活動等) ・一般、審判、賛助会員への定期的情報配信 ・SNS、ウェブサイト等の活用促進、ホームページ等の外注化検討 ・他県のホームページ、会員への連絡内容、推進体制を参考にする ・県内メディアとの連携を図る（地域新聞、ローカル放送、情報誌等）	・長期的な視点で選手の発掘・育成計画と、指導者育成計画を策定 ・次世代選手（ジュニア層）の大会出場経験の引き上げを図る ・県内のクラブチームにジュニアメンバーの加入促進を推奨 ・県スポーツ協会・市町村のスポーツ協会との連携 ・国スポを目指す選手発掘にむけ学連事務局などに県出身選手の紹介を打診 ・中学校・高校の運動部、大学のクラブ・同好会、スポーツクラブとの情報交換 ・J-リスターPなど関係団体の発掘事業の情報から三重県在住者との接触を図る ・三重県と連動し、国スポ目標の立案 ・選手強化合宿をJ T Uや東海ブロックと連携して進める ・指導者資格保有者の活動に向け意見交換の場を設ける ・三重県協会強化委員会と外部コーチの連携 ・三重県のチームみえトップ指導者養成事業に指導者資格保有者を推薦 ・中学校の休日部活動の地域移行の動き注視し、指導者資格保有者に情報を展開 ・資金確保：三重協会会費の値上げ、賛助会員を増やす ・三重県との事業予算配分の折衝や情報収集 【セカンドキャリア支援】 ・県内企業への就職支援体制確立 ・三重県の就職支援事業への積極的な参加 ・セカンドキャリアに関する協会方針検討

(一社)三重県トライアスロン協会 中・長期計画

2025年6月24日

ミッション (使命)	多様な人々に、トライアスロンを軸としたマルチスポーツを、 安全に愉しめる環境と交流の場を創出します。 スポーツを通じた地域社会への貢献と、健康的なライフスタイルを促進する 普及・発展活動を継続的に行います。 おいないさ、三重。	
区 分	組 織	安 全
ビジョン (役割)	・ 三重県協会の登録会員を増やします。 ・ 協会内でのガバナンス強化、財務体質の安定化により 組織を適正に運営します。 ・ 会員・地域・行政・各団体との信頼関係を深め、 スポーツによる地域発展に貢献します。	・ 安全をすべてにおいて最優先し、大会・イベントに関わる 選手・スタッフ・観客の皆様へ安心と信頼をお届けします。 ・ トライアスロンを通じて地域の風土、文化を活かした 自然環境保護に努めます。
アクティビティ (活動)	・ 登録会員増強の活動推進 ・ TOの増員と育成 ・ 透明性の高い組織運営の確立 ・ 協会の体制を見直し、社会的価値を高める組織へ変化する活動 ・ 外部団体との関係強化活動 ・ 県内クラブチームと協会との関係強化活動	・ 安全教育活動の推進 ・ 事故発生率低減への取り組み ・ 地域環境活動への参画
具体的な目標	・ 登録会員数の増加：登録会員数300名、ジュニア会員20名（2028年まで） 女性会員の増加（2024年度比2028年に2倍に） ・ 賛助会員20社を目標とする（2028年まで） ・ 協会内部を実効性のある組織に再編成を図る（2025年度中） ・ 専門家チーム、専門委員会の設置（2025年度中） ・ 中長期の資金計画策定（2025年度中） 【伊勢志摩・里海大会に関して】 ・ 里海大会の新規スポンサーを年1社以上新規獲得する	・ イベント開催時の参加者・スタッフ向け 安全管理ガイドライン作成（2025年度中）と周知徹底 ・ 安全教育は年2回、総会後および審判講習会のカリキュラムとして実施。 ・ 目標として、大会運営時の事故発生率を0%にする ・ 県内各地でのイベント時には、参加者による自然保護清掃活動を実施（年3か所） 【伊勢志摩・里海大会に関して】 ・ 救護チームの充実と大会に関わる全ての人向けの安全啓蒙活動実施 ・ 環境保全アクション実施（ごみゼロ運動・エコステーション設置など）
具体的な活動内容	・ 総会に併せて会員相互の研修・交流会の開催 ・ 役員はトライアスロン競技者に限定せず、広範囲に社会的見地の高い人材を起用 ・ 協会役員の増員及び若手の登用 ・ 内部諸規程の整備 ・ 協会内の役割分担・責任権限を明確にする（運営マニュアル作成） ・ 協会内での専門家による講師又は外部講師による研修会依頼 ・ ガバナンス研修会、コンプライアンス研修会を年1回開催 ・ J T U・スガ協等によるガバナンス研修の依頼と受講機会設定 ・ 理事会・委員会による定期的なガバナンスチェック（チェックシート作成）実施 ・ 既存の委員会に加え、法務専門家を交えたガバナンス委員会、 医療関係者を中心としたメディカル委員会等を設置 ・ SNS活用推進チームをつくり、HPの充実とSNSでの情報発信力を高める ・ 三重県担当課および県スガ協との窓口（担当者）を組織横断的に定める ・ 地域の商工会議所、企業、学校との連携を深める ・ 社会貢献団体（ロータリークラブ、ライオンズクラブ等）との協力体制強化 【伊勢志摩・里海大会に関して】 ・ デジタル技術を用いたスマートな運営を大会事務局とともに検討 ・ TO/その他スタッフも含めた運営品質向上を目指し大会事務局とともに検討	・ 熱中症対策の強化、医療関係充実・安全管理者の育成 ・ 選手だけでなくTOやその他スタッフも含めた安全・安心な競技環境の整備 ・ 安全教育の講師は内部で育成、カバーできない部分は外部へ依頼 ・ 各種安全教育の開催： ・ レースでの安全対策講習 ・ファーストエイド講習 ・ イベント安全対策講習 ・三重県の環境保護について学ぶ。 ・ BLS講習会の参加推奨活動 ・ 環境活動や研修会を練習会等と併せて実施 ・ 大矢浜の海岸清掃活動ほか協会主催行事での参加者による環境活動を提案 ・ 三重県協会スローガン「おいないさ、三重」の全国的周知 【伊勢志摩・里海大会に関して】 ・ 医療関係者の連携・連絡体制の確立 ・ 救護チーム事前ミーティングと事後の振り返りの継続化 ・ 地元医療関係者、みどりクリニック、鈴鹿医療科学大学との連携強化 ・ TOおよびスタッフの肉体的負担軽減策を大会事務局と継続的に検討 ・ スマートな大会を目指し、選手・観客・スタッフの協力の下、 ごみゼロとともにペットボトルキャップのリサイクル運動を進める